

HO YOG

教区新報

浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所
〒650 神戸市中央区加納町6-3-1
(本願寺神戸別院内)
電話 神戸(078)393-5949(代)
[編集] 教区基推委広報部

1994. 3. 77号



三人が組活動報告を行った

宗祖と蓮如上人は強いところで結ばれながら生き方は違う」と蓮如上人批判に対する見解を述べ、主な出来事を紹介しながら生涯について話した。

分科会では①人と地域と寺との交流について②これからの寺のあり方とは、の二点について五つの班に分かれて話し合い、「寺の維持管理について資金集めに苦労するという声が多い。総代が先頭に立ち、範とならないとむずかしい」「別院改築の協賛懇志について詳しく説明してほしい」などの意見や、「寺に人が集まらない」「ふだんからのコミュニケーションが欲しい」という意見が出された。どうしたら寺に人が集まるかについて山崎師は「蓮如上人の教化活動は人々が求めながら得られないものを説かれた。今の人々に寺は何を与えることができるかを考えるのが分析が欠けていたのではないか」と話した。

夜は懇親会の席で、参加者同士が親睦を深めた。

二日目は、名号を数多く書き与えたり御文章を書かれた蓮如上人のご教化についての講義の後、質疑応答で研修のまとめを行った。

先日、かわいい孫がお浄土へ還帰してしまつた。この世に生を受けて五カ月の短いのであつた。一度、母親に交替して二泊三日の看護をした。母親が「智香(孫の名前)ちゃん、おじいちゃんを困らせなかつた?」と我が子の頭を撫でてやると、医師や看護婦の白衣を見ては泣き、私には泣かないまでも絶対笑わなかつた。母親が母親の顔をじっと見て、こつこつと微笑む姿に、母親の慈悲の偉大さに涙させられた。到底比較できないが、弥陀の慈悲の一端を覗かせていただいたような気持ちで手を合わせた。お勤めの際などに「阿弥陀様、孫を助けてやって下さい」と、また、わが亡き父母に「緑薄い孫が還浄したら、私達の下まで抱きしめてやって下さい」と一心に頼んで、今まで何を聴聞して来たのか、と涙すること屢々であった。◆今あらためて、いのちとは、お念仏とは、孫の死を通して問ひ直させられている。ご叱責ご教導を賜れば幸甚です(渡邊義學)

蓮如上人の生涯に学ぶ

教区門徒総代会(雲山豊会長)が、門徒総代自らの開法と宗門・寺門の護持発展に寄与することなどを目的とした一泊研修会を、去る二月二十四・二十五日に舞子ピラで開催し、五十六

人の総代さんたちが参加した。

忌ご消息の意義や蓮如上人のご生涯などについて講義した。

基調講義では「宗祖批判はないが蓮如上人批判はある。宗祖と蓮如上人を比較して宗祖のところが蓮如上人に伝わっていないと言わ

門徒総代会が一泊研修会

れるが、お二人の間は二百年あるのでその隔たりは無視できない。特に宗祖には本願寺がなかったので自分の道、南無阿弥陀仏の道ひとすじ。蓮如上人には大きな教団があり、宗教者であるとともに事業家であった。

教区だより 3・4月

9日(水) 起工式	11時	20日(日)~22日(火) 別院彼岸会 川本法網師	1時半
10日(木)~11日(金) 豊岡教堂永代経法要 義本弘導師	豊岡教堂	25日(金) 組長会	10時半
12日(土)~13日(日) 仏壮大谷本廟一泊研修会	大谷本廟	建設・推進委員会総務部会	1時
14日(月) 常備会	10時半	27日(日)~29日(火) 寺院子弟研修会・スキーツアー	志賀高原
14日(月)~16日(水) 別院常例法座 佐々木大観師	1時半	29日(火) 建設・推進常任委員会	10時半
17日(木) 教区会	10時半	31日(木) 社推協評議員総会	10時半
18日(金) 門徒総代会幹事会 都市開教推進部会	10時半 3時	4月2日(土) 第一土曜仏教講座 武田 智徳師	1時半
		3日(日) 永代経開關法要	大谷本廟



'94. 2. 22

本願寺神戸別院改築・兵庫教区教化センター設立 建設工事進捗状況

本願寺神戸別院改築・兵庫教区教化センター設立、建設工事の進捗状況と今後の予定についてお知らせいたします。

25日ごろから
・整地、地盤改良
28日ごろから
・ボーリング調査

予定
3/7日~8日
・起工式設営
3/9日
・起工式

建設懇志進納総額
九億三百二十七万四千五百円
('94年2月28日現在)

現況
2/17日
・本堂内陣荘殿、仏間、納骨壇設計などについて、六社に説明会を開催
19日
・地階、基礎解体完了
23日
・定例打ち合わせ

差別撤廃へ署名協力を

この度本山・基幹運動本部から「人種差別撤廃条約ならびに国際人権規約の早期完全批准を求める署名」への協力依頼があり、先ごろ教務所から各組長事務所に署名用紙を送付しました。日本は国連の人権に関する条約のうち七つに批准したのみで、十六の条約には批准していないのが現状。本願寺派の署名目標数は

お彼岸の「法」を配って下さい

今年も「法」シリーズのお彼岸号を作りました。価格は一部二十円で、百部以上の場合には、無料で寺号を印刷します。お早めにお申し込みください。(広報部)

敬 弔

補阿以さん(くすのき・あい) 赤穂南組妙道寺前坊守) 二月二日、九十四才で往生。葬儀は二月四日、妙道寺で、「慈教院釋尼香薫」(非常勤)。

津川真澄師(つがわ・ますみ) 城崎組明元寺前住職) 二月七日、八十才で往生。葬儀は二月九日、明元寺で「明信院釋真澄」。

昭和三十年から同六十一年まで、任職在職三十一年の間、昭和三十六年から同四十四年まで副組長、組長を務めた。

鈴木武夫師(すずき・たけお) 高砂組正覚寺住職) 二月十九日、九十六才で往生。葬儀は二月二十一日、正覚寺で、「智眼院釋武夫」。

昭和十八年から任職在職五十年の間、昭和二十一年から同三十一年まで、組長を務めた。

「暮らしの中の偏見と部落差別」

一同兵宗連が学習会一

二月十七日、別院仮本堂で、現在本願寺派が事務局を担当している同兵宗連の学習会が開催された。

講師の北口末広氏は近畿大学人権問題研究所専任講師で、自らが相談を受けた結婚差別事件のなかで明らかになった問題と、現代のものの考え方を吸収している私たちの課題について話した。

交際相手の男性の両親が結婚に反対しはじめた最初の理由は経済的なつりあいと学歴が違うということだったが、本当の理由は同和地区の出身だからだと言われて、「同和地区出身でない私をそう言うのは心外だ」という彼女は差別意識を持っていた。

和地区かどうか調べてほしいと電話をしてきたのは「そうでなかったらほしい」という思いだった。差別意識がなければ同和地区出身だと間違われても不安にならない。もし反対に皇族の出身と間違われたらそれでもいいと思うだろうということ、彼女は自分の差別意識に気づいた。

結婚問題で、最愛の男性から自分の持っている意識の被差別者にさせられてしまった彼女は自分の意識で自分を苦しめた。

つきつめてはつきりしていることは、彼女は同和地区出身かどうか分からないこと、しかし明確に彼女は部落差別を受けているという事実が話でなければ分からないこと。「同和地区出身者不在の部落差別事件」は奥信所の身元調査など多い。なぜこういう事件が起こるのか。人間の意識は情報の入れものであり、その情報には価値観が付随している。意識せずに吸収した価値観が今度は情報を発信するとき無意識のうちに発信される人を傷つける場合がある。

その時の課題は、お互いに守らなければならぬ基本的な人権が生まれた「他者の視点に立つ」見方での意識を対象化すること、二、差別はいけないと誰もがわかってはいるのに、なぜ差別があるのか。本音と建て前があること、差別の基準がわかっていないから時代とともに変化発展している差別の基準、人権の基準を学んで行こうとすれば常に最も進んだ人権水準を学ぶこと。三、同じものは平等という認識を持っているが、本来の人権意識である違いを認めつつ平等という平等認識が大切。

(文責在記者)

トピ誌

◆2月1日 企画推進室会 これまで検討を続けてきた教区基推委規約変更案を、基推委総会と教区会提出へ向けての協議。基推委総会では「信心の社会性」をテーマに問題提起と質疑を行い研修する◆2日 青僧会役員会◆2日 3日 滋賀で行われた近畿地区教区会議長・教務所長・組長代表者合同会議に田中法鏡議長・土基謙教所長・山本宣昭組長代表が出席◆4日 津村別院での近畿同朋運動推進協議会会員研修に教区から十人と担当者出席。講師は広島電機大学付属高校教諭・正木峯夫氏◆5日 第一土曜仏教講座。講師は寺澤忍師、テーマは「浄土真宗のキーワード」。私にとっての仏教(念仏の法)をどのように聞くかについて化学式を例に上げながら聴聞の六つのカドとなるのは「本願力回向・信心正因・現生正定聚・往生浄土・称名・悪人正機」と話されました◆本山で開催さ

れた第一回ビハラ活動全国集いに教区から約二十人が参加。第一回のこの集いには全国から約三百人が集まり分科会では熱心な討議がなされるなど、関心の高さを伺わせた。講師の「ビハラは耳の聞こえない人、目の見えない人に対して何ができるのでしょうか」という問いかけに、参加者は自分たちの活動を考えさせられた。懇親会も情報交換

の場◆6日 永代経開闢法要を大谷本願寺◆7日 少年連盟役員会◆本山での如月忌法要に教区から二百五十人が参拝。別院婦人会もバスで恒例の団参◆8日 連研のための研究会。講師は本山研修部長・山内教嶺師と和田宏之師(揖籠東組源徳寺)。山内師は基幹運動の出発点ともいえる一九六〇年代後半の高度経済成長と新宗教の密接なつなが



2/8 別院仮本堂で連研研究会

法座のあり方問い直す

りなど、社会構造や意識の変化をとらえた新宗教とそこの法座を教団の歩んだ方向と比較しながら、人間性が回復されていく中で自らの依って立つ原点を捜そうとする基幹運動の趣旨を話した。また、これまでの連研を振り返りながら「悩みを共有する場であるはずの法座が、僧侶の教えたことを問いなさいという構造になっていかなかったか。私の基準で優秀な問いとそうでない問いを分類し、参加者が尋ねたいことを遠慮しながらしか問えない雰囲気のみならずに伝わっていたのではないかと問題点を指摘。僧侶が権威を保つために教材を選ばずなら連研ノートは使えないものになっていくことを述べた。

協賛会では「お互いの顔がわかっている地域では法座で赤裸々な悩みは出しにくい。信頼関係の持てるような理想的な話し合いにはなりにくい」「若い人は年をとって至りついたら心境を語っても理解してくれない。今は何もうことのない日本で今日、共通の悩みが少

なく個々の問題は話し合えないのではないか」などの意見や研修読本作法編についての質問などが出された◆8日 9日 本山での新任職員研修会に内本書記が参加◆9日 城崎組明元寺前住職・津川真澄師の葬儀に教務所長参列、達書伝達。津川師は長年にわたり豊岡教堂の参勤を勤められました◆ビハラ兵庫編集委員会◆10日 神戸市中央区ののじぎく会館で開催された部落解放基本法制定要求国民運動兵庫実行委員会第八会総会に同兵宗連から十六人が参加。「小手先の同和対策事業ではなく部落問題の根本的な解決の方策を求めたいかなければなりません」という総会宣言を採択◆14日 16日 別院常例法座。講師は光森宣明師(北摂組正覚寺)◆17日 同兵宗連学習会(二面に関連記事)◆別院本堂内陣莊殿・その他仏間設計・施工工事について既存仏具修復についての別院の見解や納骨壇の設計にかかる基本事項や諸条件などの説明会を開催。三

出石組勝林寺住職

西池哲俊さん



みんなに動かされて

高齡化社会の到来とともに、社会福祉についての関心が高まってきたのは宗門内も例外ではない。去る二月十八日の社推協と社福専門委員会合同研修会で、地域における寺院社会福祉の

となつて二年が過ぎた。「同朋教団といながら僧侶の教団ではないか。宗制においても門徒不在のような気がする」と率直に語る。故東井義雄先生に大きな影響を受けた。亡くなられ

特に趣味といえるようなものはなく、酒を飲むくらい。お孫さんと一緒にいるのがいちばん楽しいので寺に帰りたいのだが、なかなかそうはいかないようだ。出石郡出石町内町五九。(広報部)

あり方について「今の寺は隔絶・閉鎖・聖域というあり方。このままでは寺の社会福祉どころか、次の世代まで寺が生き延びられないのではないかと」と話した。教区の基幹運動推進に長年貢献した後、中央相談員

る二三年前には、よく勝林寺に立ち寄られるいな話をされたそう。また、厳しくしつけてくれたお母さんと、一生懸命に聴聞された坊守さんの助けが大きかった、と振り返る。寺報は十五年、テレホン法話は十一年続いているが最初一年もたないうちに上手上げの状態になった。それを助けてくれたのは、今は亡き坊守さんであった。投稿をしてくれたり、発送や配布をしてくれる同行の支えを通して「寺は住職が動かしているのではないと思う」というのが実感。区長を五年間経験して、地域に対してそれまでとは違ったものを感じ、地域での自分の位置が見えた。気楽に集まれる場を、という思いから、みんなが寺で休らげるような雰囲気のあるビハラを考えながら、出入りをされる仏仕や主婦の役員さんたちとの活動が続く。